

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
京都医療センター新病棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質						3.2			
Q1 室内環境			0.40			3.2			
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00	3.0			
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40				
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00				
2 設備騒音対策			-		-				
1.2 遮音		3.0	0.40	3.0	0.40				
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20				
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0			
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50				
1 室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57				
2 負荷変動・追従制御性			-		-				
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43				
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	-				
5 温度・湿度制御			-		-				
6 個別制御			-		-				
7 時間外空調に対する配慮			-		-				
8 監視システム			-		-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30				
3 光・視環境		3.0	0.25	3.0	1.00	3.0			
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.60				
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30				
1 照明器具のグレア			-		-				
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15				
1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00				
2 照度均斉性			-		-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境		4.2	0.25	3.8	1.00	4.1			
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63				
1 化学汚染物質		シックハウス規制対象外製品とF☆☆☆☆製品のみ使用。	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策			-		-				
3 ダニ・カビ等			-		-				
4 レジオネラ対策			-		-				
4.2 換気		4.0	0.30	3.6	0.38				
1 換気量		換気回数は、必要換気回数の2倍以上を確保。	5.0	0.50	5.0	0.33			
2 自然換気性能			3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33			
4 給気計画			-		-				
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御		病院敷地内すべてにおいて禁煙となっている。	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能			-	0.30	-	3.3			
1 機能性			3.0	0.40	4.4	1.00	3.3		
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.60	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		一般病室は、1床あたり20㎡以上を確保。	3.0	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画			3.0	1.00	3.0	-			
1.2 心理性・快適性			3.0	0.40	3.5	0.40			
1 広さ感・景観		一般病室の天井高さは2.5mである。	3.0	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			3.0	-	3.0	-			
3 内装計画			3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理			-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保			3.0	-	-	-			
2 耐用性・信頼性			3.4	0.31	-	-	3.4		
2.1 耐震・免震			3.8	0.48	-	-			
1 耐震性		重要度係数1.25で設計。	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数			2.9	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		更新年数20年以上の材料を使用。	5.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備	非常用電源、無停電装置を備えている。	3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.29	3.5	1.00
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	4.0	0.50
1	階高のゆとり	階高は、3.7m～4.1m	4.0	0.60	4.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率は、0.12	4.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制		窓面積の最適化、断熱性の確保により熱負荷を抑制する。	5.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		設備機器の最適な制御を行い、無駄を抑える。 ERR=26.6	5.0	0.30	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-
1.1	節水		3.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	断熱材		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		ランニングコストを抑える設計となっている。	5.0	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-
1	騒音		-	-	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2	風害、日照阻害の抑制		3.0	0.67	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3	光害の抑制		3.0	0.33	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-